

このコーナーでは、都産技研の研究員をクローズアップしてご紹介します。研究員の人となりが分かることで、より都産技研を身近に感じていただきたいという思いから生まれました。どんな人が都産技研にいるのか、ぜひご覧ください。

生体材料の観察を サポートしています

今回ご紹介するのは、バイオ応用技術グループの畑山 博哉さんです。2011年に入所し、バイオ応用技術グループに配属以来、今年で4年目に突入した畑山さん。まじめな人柄が文章からもにじみ出ています。

●主な仕事内容は？

生体材料の微細構造観察に関するお客さまのニーズにお応えできるよう日々技術を磨いています。また、都産技研独自のコラーゲン改質技術を駆使した医療材料の開発・評価などの研究開発にも力を入れています。

●畑山さんが日々心がけていることは？

さまざまな技術ニーズに柔軟に対応した試験を提供できるよう努力しています。日頃より外部からの情報に注意深く耳を傾け、広い視野を持ってお客さまの製品開発・研究開発のお役に立てるよう心がけています。

Introduction



本部
バイオ応用技術グループ
副主任研究員
畑山 博哉

臨床ニーズへの挑戦！

大学時代に取り組んだ臨床医との共同研究の中で、臨床ニーズに基づいたものづくりの大切さを学びました。都産技研入所後も、医療・生体材料の開発や評価に関わっていますが、この分野は進歩が速く、毎日が刺激的です。今後も好奇心と探究心を忘れずに、挑戦を続けていきたいと思っています。

お問い合わせ バイオ応用技術グループ<本部> TEL 03-5530-2671

TOPICS

トピックス

たまロボットコンテストで 多摩テクノプラザ賞贈呈

2月27日～28日に行われた「たま工業交流展」のイベントの一環として、3月1日に「たまロボットコンテスト」が行われました。工業高校部門では、ロボットのプログラミング教材キット(レゴマインドストームEV3)を各チームが工夫を凝らして組み立て、ライントレース、缶の移動、所定位置への静止のタイムを競いました。都内の工業高校から12チームが出場し、ぎりぎりまでプログラミングの手直しや動作調整を行って試合に臨んでいました。

多摩テクノプラザでは、優れたロボットの紹介プレゼンテーションに「多摩テクノプラザ賞」を贈呈しました。受賞者は、都立総合工科高校(チーム名: システムC.A.I)でした。ロボットの製作にあたって目標タイムの設定をしており、ものづくりに重要な目標の設定ができていたことが受賞の決め手となりました。



多摩テクノプラザ賞の授与



心配そうに見つめる競技者(左)と審判(中央)

第39回(平成25年度)発明大賞表彰式 開催

3月18日、本部東京イノベーションハブにて、(公財)日本発明振興協会と日刊工業新聞社の共催事業「第39回(平成25年度)発明大賞表彰式」が開催されました。都産技研は、(公財)日本発明振興協会と連携協定を締結しており、後援機関として協力し行われたものです。

発明大賞は、独創性に富む発明によって科学技術の振興や産業の発展に寄与した中小企業などに贈られるもので、本賞を受賞された株式会社アミンファーマ研究所「脳梗塞・無症候性脳梗塞のスクリーニング方法」をはじめ、24件の表彰が行われました。

当日は、受賞者や関係者97名が出席され、受賞者の挨拶では、さまざまな分野での発明に至ったいきさつや経験のお話がありました。



表彰式の様子



受賞者記念撮影